

令和5年度（第1回）糸田町地域公共交通協議会

■開催日時・場所

日 時：令和5年7月21日（金） 14：00～15：30

場 所：住民センター2階 第2・第3研修室

■地域公共交通協議会名簿

	所属	役職	氏名	備考
(1)糸田町長又はその指名するもの	土木課	課長	加治 昭生	
(2)一般乗合旅客自動車運送事業者	田川構内自動車(株)	総務部長	長井 智章	
	西鉄バス筑豊(株)田川支社	支社長	青木 明生	
(3)鉄道事業者	平成筑豊鉄道(株)	代表取締役社長	河合 賢一	
(4)住民又は利用者代表	糸田町行政区町会	会長	梶田 哲也	
	PTA	会長	春本 文有子	
	老人クラブ連合会	会計	森 和子	
	交通安全協会糸田支部	支部長	廣末 豊子	
(5)九州運輸局福岡市局長又はその指名するもの	九州運輸局福岡運輸支局	支局長	傳 勝博	代理 是久氏
(6)一般旅客自動車運送事業者の組織する団体	福岡県バス協会	事務理事	中川原 達也	
	福岡県筑豊地区タクシー協会	会長	嘉久 礼子	
	福岡県交通運輸産業労働組合協議会 (西鉄グループバス労働組合)	副執行委員長	熊本 正志	
(8)学識経験者	福岡県立大学	准教授	寺島 正博	
(9)町内の道路管理者又はその指名するもの	福岡県田川県土整備事務所 用地課	管理係長	淵上 大輔	代理 磯田氏
(10)福岡県田川警察署の代表者又はその指名するもの	田川警察署 交通課交通総務課係	係長	田中 一実	
(11)糸田町商工会の代表者又はその指名するもの	糸田町商工会	会長	田代 裕	
(12)糸田町社会福祉協議会の代表者又はその指名するもの	社会福祉協議会	会長	石川 謙一	
事務局	地域振興課	課長	木村 成伸	
	地域振興課	課長補佐	松岡 俊輔	
	地域振興課	係長	上野 恵美	

1. 開会

2. 会長挨拶

10月2日からデマンド輸送の実証運行が開始する。小さな公共交通会社を0から作るようなものであるため、皆様温かい目でご支援等願いたい。

3. 議事

(1) 新委員への委嘱状交付

(2) 第1期実証運行（無償）について

【運行について】

- ・当日予約に対する制約について（ある程度制約を設けた方がわかりやすいのではないかな）
→当日予約は電話・Webのみ受け付ける。FAXは受付不可。配車可否の判断はAIが行う。
実証実験ではあまり制約を設けず窓口を広くして、まず使ってもらうことが重要と考える。
- ・キャンセル方法について
→広報資料に追記し、必ず電話などをしてもらうようにする。
- ・実証運行の見直し方法について
→基本的には、ある程度集約して会議に諮り、方向性を示していきたい。
軽微変更は適宜更新、大きな変更は交通会議で決定したいと考えている。
- ・予約内容の事前確認方法について
→事前のメール配信などは考えていない。予約時刻に来ない場合、電話連絡する予定。
今後、待機時間などのルール作りをしていきたい。
- ・停留所（ミーティングポイント）の表示について
→標識などの構造物は立てず、ラミネートしたポスター掲示などを考えている。
→道路の一部を占有しないのであれば、問題ない。
- ・短時間停車であっても、場所によっては道路交通法違反となる可能性がある。
→停留所に関する道路交通法との兼ね合いについては、警察と別途確認させていただきたい。
- ・運転手の労務管理について（良い心身の状態を保つことが重要）
→収入は運行時間ではなく拘束時間により決まるため、収入面の安定は問題ないとする。
→休憩については、糸田町では1台での運行を予定しているため、運転手が2人体制であれば交代で休憩を取る。1人の場合は昼休憩などで運行できない時間を設定する可能性がある。
また、実証運行の結果によっては、運行台数を増やすことも考えられる。

【広報について】

- ・広報用チラシの確定時期について
→8/21開始予定の行政区説明会までには確定させる。
- ・説明会を行う部署および関係部署（総務課、健康福祉課など）との連携について
→説明会は地域振興課のみで行う。
→方向性が似た事業を行っている健康福祉課とは、密に連携を図っている。
- ・利用方法の理解および広報周知の徹底について
→まず使ってもらうことが重要。利用方法の周知は時間がかかるだろうが、粘り強く取り組む。

【ネーミングについて】

- ・いったんは、事務局案「いっとこカー」で異議なし。

(3) 筑豊（特急）福岡線の一部区間廃止について

西鉄バス「筑豊（特急）福岡線」の筑豊遊園系統について、令和6年4月1日付けでの廃止に関する案件が出ている。当該路線は糸田町内にあるバス停「糸田口」を經由するものである。町としては、路線存続に向けて利用促進の取組を進めたいと考えている。

- ・乗車率を上げる手段は広報・周知・啓発になると思われるが、西鉄はどう考えるか。
→乗車率を191%にすることは非常にハードルが高く、周知にもかなりの労力を要する。
筑豊遊園系統からバイパス経由にするだけで運行時間を3分短縮できる。
筑豊遊園系統の利用実態はかなり厳しく、路線存続は厳しい状況である。
- ・地域の人はどうのような関心を持ったか。
→自家用車移動が多いものの、糸田口から福岡・天神への移動に使うこともあり、廃止は残念。
→筑豊緑地の利用者は自家用車利用が多く感じるため、バス利用者はほとんどいないと感じる。

4. 次回交通会議の開催について

次回は9月下旬（実証運行前）を予定。

<閉会>